

平成15年度重点基礎研究の概要

企画部科学技術振興課が予算化している競争的資金による研究事業です。平成15年度は、次の4課題が採択となり、研究を実施しています。

○ 平成15年度研究課題

No.	研究員	部・グループ名	研究課題（概要）	区分	研究年度
1	岡崎則男	微生物部 呼吸器系細菌 グループ	肺炎マイコプラズマの抗生物質耐性に関する研究 最近、国内で発生した肺炎マイコプラズマ感染症において、治療に有効な薬剤に対する耐性菌が検出されている。当所は肺炎マイコプラズマの培養検査や薬剤感受性試験を実施できる全国でも数少ない機関であり、本研究では薬剤耐性検査法を確立すると同時に耐性菌にも有効な薬剤の検索を実施し、肺炎マイコプラズマ感染症の治療と予防に役立てる。	継続	15~16
2	近藤真規子	微生物部 エイズ・イン フルエンザウ イルスグルー プ	HIV感染者に見られたnef 欠損HIV-1 変異株の解析 HIVに感染すると一般的に1~2カ月ごろから抗体が検出されるようになり、その2週間後には抗体は高いレベルとなる。しかし、当所では、HIV感染後長期にわたり抗体価が低レベルで推移し、HIV遺伝子も検出されない希な症例を経験した。長期にわたるフォローアップの検査の結果、この症例のHIVnef遺伝子に欠損が認められた。そこで、この症例のウイルス側の要因を詳細に検討するため、HIV遺伝子について経時的に調べ、遺伝子の欠損と抗体反応、病態について解析する。	新規	15
3	熊坂謙一	理化学部 薬事毒性グ ループ	健康食品等に混入した医薬品成分の分析方法の検討 最近、健康食品の使用による健康危害が発生している。その原因の一つとして、一部の健康食品に使用が許可されていない医薬品成分が添加されている場合があり、思わぬ副作用が生じることがある。そこで、健康食品への添加が予想される医薬品成分や、過去の事例において分析が困難であった医薬品成分について、その迅速な分析方法の開発を試みる。	新規	15
4	伊藤伸一	理化学部	河川水中に存在する女性ホルモンの挙動に関する研究 環境ホルモンが問題になって久しいが、近年、環境ホルモンに替わり人や動物由来の女性ホルモンが、問題視されている。体外に排出される際には不活性化されて胞合体になることが知られているが、水環境中では再活性化されることが危惧されている。そこで、河川水中の女性ホルモンの実態調査と併せて女性ホルモンの挙動を解明する。	新規	15